



なか ひでとし  
中西 秀俊  
(奥和会)

- 地域の大切な宝物、梁川診療所の存続を
- 地域活性化に「奥州北の芸能と食の物産館(仮称)」を
- 現道舗装など道路の予算確保を

**質問** 梁川診療所の今後の対応は。

**市長** 医師派遣先の病院と検討して、地域医療のレベル低下を招かないように課題を整理している。

**質問** 江刺田瀬インター付近に地域交流施設、道の駅設置で奥州をPRして地域活性化につなげては。

**市長** 地域の声として理解をする。判断材料として平成27年度に実施の交通量を見たい。道の駅設置が生む効果のほか、費用対効果の分析や運営主体など持続的に機能と成果を発揮できるか総合的に判断して、これに基づき総合計画への位置づけや内容が決められていく。

**質問** 梁川館下町裏河川改修完了後の緊急避難道路整備について。

**市長** 堤防に隣接する住民の要望で盛土を行い設計変更された。管理用通路は維持管理を目的とした構造で路盤の厚さ、幅員もなく、市道認定要件を満たしていない構造である。日常生活用通路



岩手県内の「道の駅」

として利用は可能である。

**質問** 広瀬地域で一番目の要望の市道三ノ関石関線の早期改良を。

**市長** 整備手法を検討するなど、課題解決に向け地域協議を行い早期に事業化のため調整する。

**質問** 現道舗装予算確保について。

**市長** 今年度は3千万円の予算を確保して江刺区内の市道を舗装する。市全体の土木関係の要望は200項目を超える。確認・検討を行い、必要性や緊急性の高い箇所から整備する。

**質問** 水利確保が困難な江刺区内の中山間地域への防火水槽設置を。

**市長** 防火水槽の設置は消火栓の6倍の経費がかかるが家屋の集積具合や地区バランスを見て年次的、計画的に整備する。



ちだ みつこ  
千田美津子  
(日本共産党)

- 乳幼児医療費等への助成は拡大はあっても後退・削減は撤回を

**質問** 奥州市は、子育て環境ナンバーワンプランを策定し「子育てするなら奥州市で」をめざし、第3子保育料の無料化など、多くの支援策を実施してきた。

しかし、市長は、乳幼児・妊産婦・重度心身障害者などの医療費助成事業について、来年から市単独補助分を削減する方針を打ち出している。

今、全国の自治体が少子化対策として、子育てしやすい環境づくりに取組んでいるが、当市の削減方針は子育て支援に逆行するものであり、方針は撤回すべきだ。

**市長** この間、小学校卒業まで拡大し、一定の役割を果たしてきた。しかし、今後安定的に実施をするためにも、県の基準をセーフティネットとし、公平性、持続性という点で見直そうというもの。

**質問** 子ども・子育て支援新制度は来年4月の施行をめざし、条例化など準備が進められているが、日本の保育の実態は、先進国でも最低レベルの面積基準、職員配置基準にあり、現状の改

善こそが急務だが、今回の新制度ではそれら必要な改善がない。子ども・子育て支援新制度の問題点と今後の対応策、事業計画策定について伺う。

**市長** 新制度では全国的に課題となっている待機児童の早期解消を図るため、企業参入や認定こども園の普及を促進する。地域型保育事業は市の認可事業となり、子どもの安全と保護者の安心を第一に、家庭的保育事業、小規模保育事業C型について、保育士の配置と複数の職員による保育の実施を要件に加えることとした。事業計画は、10月を目途に素案を策定し、パブリックコメント等を経て、3月の決定を予定している。



運動会の入場行進 (いずみ保育園)